

バグダッド 日 誌 (3月18日)

○SNRカンファレンス・アイス・ブレイカー

昨日夕、SNR・カンファレンス（シニア・ナショナル・レプリゼンタティブ・カンファレンス：各国代表者会議）に先だって実施されたアイス・ブレイカー（懇親会）に、群長の代理として参加した。コアリションから沢山の将官が参加しており、豪華絢爛な懇親会であった。

MND（CS）ポーランドの師団長と挨拶していた際に、丁度 [] が来られた。師団長は、[] に「こちらに移動するため離陸した途端、RPGの攻撃を受けました。これを避けるためにヘリが相当揺れました。」と、こともなげに報告していた。さすがの [] も大変驚かれ、無事の到着を心から喜んでおられた。

（野崎）

○大工の棟梁

日本隊が居住するコンテナからシャワー・トイレまで片道約500m弱ある。雨が降ると田んぼのようにドロドロになり、シャワーに行く気が起こらないほどだった。

最近、この道に木製の通路を設置するため、日本隊コンテナの真ん前で10人ほどが大工仕事をしている。この大工の棟梁と親しくなり世間話の花を咲かせている。この棟梁は、米陸軍を退役してKBR（ケログ・ブラウン・ルーツという米軍を支援する民間会社）に入り、KBRの木工職員として2度目のイラク勤務だそう。1度目は2004年で半年間、今回はもうすぐ1年になり、まもなく帰国するという。

私がいつも棟梁と呼んでいると「トゥリョウ」って何だと聞くので「Chief Of Carpenter」だと答えると満足している。いろいろ話を聞いてみると「馬鹿息子の大学進学のためここで頑張っているんだ。1年間で8万ドル持って帰れる。でも馬鹿息子の野郎ライフ・セーバー（女性にもてる職業らしい）になりたいと言ってやがる。俺は、息子に弁護士になって欲しいと思っているんだ。もし大学に落ちたらケツを蹴飛ばしてやる。」と息巻いている。でも分かれ際、優しい父親の顔になり「息子が弁護士になるために、もう一回ここで働くつもりだ。」と言っていた。

アメリカも日本も大学受験を控えた子供を抱える家庭は大変だと感じるとともに、「親の心、子不知」なのだなと感じた。



バスラLO日々業務報告(3月18日1900)

区 分	内 容
1 警戒態勢	バスラ空港 [] [] (警戒態勢) : []
2 特記事項	(1) [] (2) [] []
3 本日の業務	(1) 情報要求対応 SSR (ISFの戦力化の状況)、MND(SE)の将来計画、IED及びIDF関連情報、デモ関連情報等 (2) 定例情報収集 : [] (3) 定例会議への出席 : 司令部朝・夕会議、J2・J3・J9認識統一会議 (4) 臨時情報要求対応、訪問調整(4件)等
4 明日の予定	(1) 情報要求対応、定例情報収集 (2) 定例会議、指揮官会議参加
5 その他(備考)	